

第25回地域福祉実践研究セミナー in 沖縄・うらそえ

## ワークショップ 6 報告

障がいのある人の意思決定支援による権利擁護を地域共生社会の視点で考える

実践報告者 : NPO法人おきなわ 障がい者相談支援ネットワーク代表 溝口 哲哉 氏

ゆいまーる 法律事務所 弁護士 寺田 明弘 氏

おきなわふくしオンブズマン 砂川 喜洋 氏

おきなわふくしオンブズマン 吉田 尚史 氏

地域サポートあごらびあ 相談員 久保田 誠 氏

アドバイザー : 日本地域福祉研究所 副理事長 田中 英樹 氏

社会福祉法人同愛会 理事長 菊地 達美 氏

沖縄国際大学 総合文化学部 教授 岩田 直子 氏

協力者 : 沖縄国際大学 実習生 比嘉 大地 氏

沖縄国際大学 実習生 桑江 建太郎 氏

障がい者ITサポート 岩松 学 氏

まちなか研究所わくわく 宮道 喜一 氏

美ら島きこえ支援協会 渡久地 準 氏

地域担当者 : 那覇市社会福祉協議会 高野 大秋 氏

障がい者ITサポート 仲根 健作 氏





ゆたしく～



#63269305

# 参加者の状況

## ▶ 会場

沖縄県総合福祉センター 403研修室

## ▶ 参加者数と内訳

47名

(社協関係者	22名
社会福祉法人・施設関係者	13名
行政	5名
NPO・株式会社	2名
大学関係者	1名
学生	4名)

# 目 的

- ▶ 障がい者（児）の社会参加が確保され、地域でいきいきとした自分らしい暮らしをどのように選択したらよいのか、また、意思決定の支援に配慮した権利擁護の方向性などの課題解決の糸口を探ることを目的に、「円卓会議方式」による支援者、当事者の実践報告及び話題提供、そして、分科会参加者全体で考えるセッションを行いました。

# 展開方法

## ◆ 実践報告

溝口氏「権利擁護・意思決定支援について」

砂川氏「利用者の声に寄り添うことで見えてくる意思決定支援」

寺田氏「福祉機関と弁護士との連携について」

## ◆ セッション

円卓会議

参加者セッション

## ◆ グラフィックレコードによる振り返り

## ◆ まとめ

# 【実践報告】 権利擁護・意思決定支援について

NPO法人おきなわ障がい者相談支援ネットワーク 理事長  
南部圏域アドバイザー 溝口哲哉 氏

▶ 沖縄県自立支援協議会 権利擁護部会

⇒ 意思決定支援ワーキンググループの取り組み

▶ 「相談援助のプロセスの中で、意思決定支援については、これまでも取り組まれて来ている。」

【意思決定のプロセス】

意思疎通⇔意思形成⇔意思表示⇔意思実現

それらに基づく支援と「選択する経験」が必要



ゆいま～る法律事務所 弁護士 寺田 明弘 氏

▶ 本人の最大限の利益につなげるべく、「何をどこまで支援すべきか、すべきでないか」を整理した上で関与することが重要。

▶ 支援の目標・支援の方法の再確認をする。「判断者」や「仲裁者」ではない。

【福祉機関との連携の取り組み】

- 法テラスの各種制度利用
- 地域包括と弁護士会の連携事業
- 福祉専門職と弁護士との意見交換会



おきなわ福祉オンブズマン 砂川喜洋 氏



▶ 重度・重複障害者の意思決定に向けた観察の視点

①情緒の安定、②身体のリラクゼーション、③快状態

● これらがどのような時に観られるか身体、目の動き、口元の動き、状態から汲み取る。

● また、重度障害児者にとって①②③の成立状態がQOLの指標であり、権利擁護にもつながる。

▶ 発達保障の3つの系

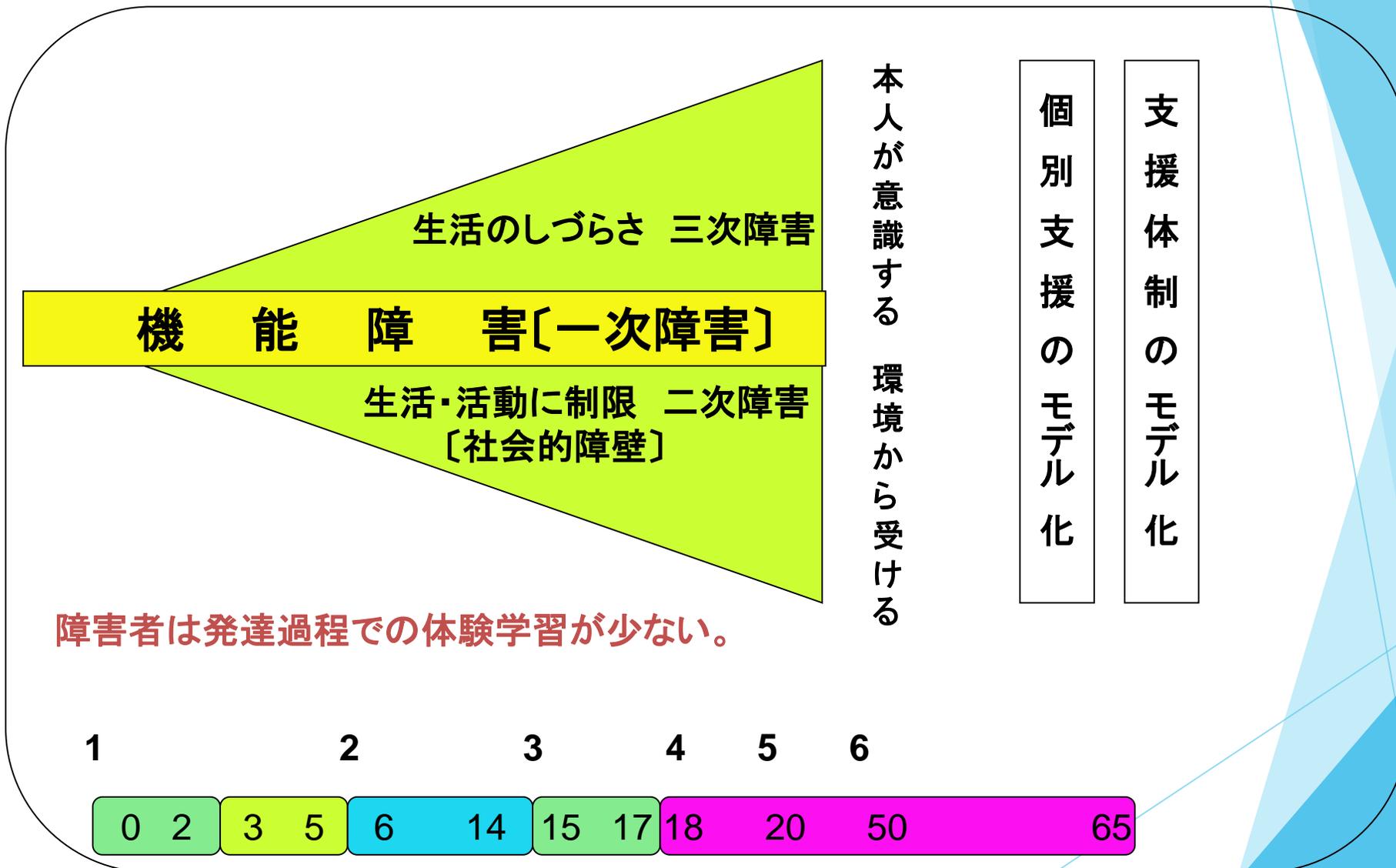
①個人の系

②集団の系

③社会（自治体）の系（条件・環境整備）

⇒ それぞれ体験・参加をしていくことが大切である。

# 障害の構造と支援



# 【円卓会議】 Nさんの事例

## 支援者の視点

地域の中でどのように関わっていくか  
支援者がサービスに当てはめてしまいがち

## 意思確認の際の姿勢

質問の角度を変える  
環境や支援者の態度で  
反応が異なる



## 意思決定支援の注意点

本人の意思は最終的に  
本人しかわからない  
支援者1人で判断しない  
様々な体験を通し  
選択につながる情報を集める

## 他職種協働・連携

福祉関係者・機関のみでなく、  
他の業種・職種と検討することも必要

## ストレングスモデル

本人や父親への見方を変える  
父親を問題視するのではない  
相談者の訴えを支援者が  
引き出し切れていない

医療保護入院させてしまったが、  
医療サポートにつながる機会と  
捉えることもできる



# 結果

～沖縄の実践から学んだこと～

何度も関わりを持つことで  
関係を作る

決めつけない

違った視点で  
考える

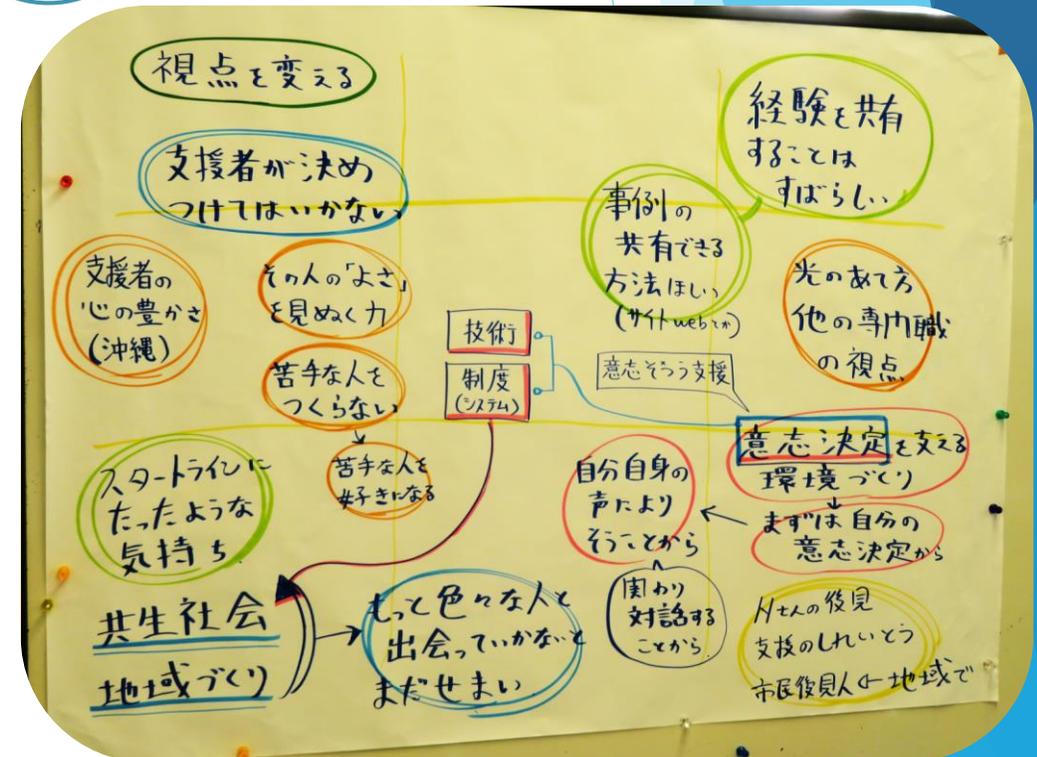
複数の機関・支援者  
と連携を取る

支援者として  
認められる

観察と共感

利用者の行動から  
心理をみる

そのメッセージを  
どう捉えるか  
読み解く力が大切



# 考察

方法・技術的  
アプローチ

システムの  
アプローチ

意思決定支援

共感と関係性

選択できる機会の保障  
(体験・経験プログラム)

システムのアプローチ  
が整っていない

パターンリズムに  
陥らないよう  
注意する！

# 結論・今後の展望

～地域共生社会の実現に向けて～

例) ひきこもりの課題

個の支援から地域づくりへ結び付けていく

課題へのアプローチと政策提言

ありがとうございました。

